

2022年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2023/9/9

団体名	認定NPO法人オリーブの家	活動タイトル	DV/虐待・ハラスメント救済・心のカウンセリングルーム開設	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景	
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	当団体の実現したビジョンは、誰一人虐げられることのない世界をつくるである。そのため、まずは大人である男女を取り巻く心の問題を早期解決する必要がある。そして問題が大きくなることへの予防をし不幸の連鎖を止め、頼れる協力者と連携しながら、孤独にならない子育てや男女関係を築き、社会での自立に向けて助け合うことをめざす。		<p data-bbox="1559 373 1664 416">対面カウンセリングの様子</p> 	
●団体の社会的役割(ミッション)	当団体の社会的役割（ミッション）は、DV虐待被害にあってしまった方の保護とそれに伴う貧困及び親家庭への自立支援だが、虐待の連鎖を留めるための心のケアや、今回の目的である男女の問題を早期解決することで子どもたちが犠牲者になることを予防する役割も担っている。新しい貧困とも言える心の貧困は、大人も子どもも未来に希望を失う原因となっている。生きる力を明るい心を取り戻す活動を地道に継続していく所存である。自治体からの依頼も増加し、行政に意見を求められる立場にもなってきたため、客観的なデータをもとにアドボカシー活動や当事者の声を届ける役割も担う。			
●団体の活動基盤	<p>①人的資源：心に寄り添えるスキルを持った専門家スタッフ数名、臨機応変に対応出来る事務的なことがこなせる常駐スタッフ、SNS等広報活動ボランティア可能なスタッフを確保し、団体の安定的な運営を図る。</p> <p>②情報：DV虐待被害者のサポート状況。行政・民間のつながりやリファー先の情報、大学機関との連携</p> <p>③活動資金：活動の支援者である会員様の会費・ご寄付、シルター受託による事業収益。民間助成金。行政との連携事業時の補助金。月額のパトナーや企業からの寄付も増加しているため、活動の発信やマッチングを丁寧に行う。</p> <p>④物的資源：安心安全でアクセスの良いカウンセリングルーム。親子やグループセラピー可能なセラピースペース。非接触での対応。</p>			
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		
<p>社会的にはコロナ禍の脅威が減ったにも関わらず相談や保護は減らなかった。これまでの実績で法人の知名度があがったことや、勉強会でのスキルアップで相談窓口の質が毎年上がっていること、事業の継続によりカウンセリングが受けられるという認知が地域に広がったことも要因だと考える。</p> <p>・子育て世代である30代40代の方の相談が半数以上(61.8%)を占めていて、そのほとんどは夫やパートナーからのDVの相談であったが、職場でのハラスメント相談も多くあった。共働き家庭が多く子育てと仕事に追われているお母さんが、夫からDVを受け、その光景を子どもが見て育っている。その苦しい家庭環境に加えてさらに職場でもハラスメントを受けていたお母さんがいた。</p> <p>・10代20代の相談は12.8%で親からの虐待の相談と、虐待の原因または元々の障がいにより虐待を受けて育ったことによる精神的な症状の相談が多かった。</p> <p>・60代（7.8%）は自身の子どもの虐待とDVの相談が多かった。</p> <p>・50代（17.6%）は夫からパートナーからのDVと、長年のDV被害による精神的疾患の相談が多かった。</p>		<p>全体相談利用者人数合計：315人 対面 心のカウンセリングルーム（被がい者等） 相談利用者合計：62人 利用満足度：平均4.8</p> <p>対面 心のカウンセリングルーム（加がい者） 相談利用者合計：12人 利用満足度：平均5</p> <p>メディア掲載（OHKテレビ、RSKテレビ、Yahooニュース、沖縄ラジオコゴ、津山市広報、NHKテレビ） 寄付者、会員数 前年度より54%増 ボランティア数6人増</p> <p>目標を大きく上回った結果となった。</p>		
■ 事業を通じて得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題		■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）
<p>●DV虐待加がい者の相談支援を通して、虐待の連鎖についての学びが深まり、被がい者だけでなく加がい者自身の苦しみと立ち直りに関する支援のノウハウが得られた。</p> <p>それは、加がい者が相談しやすい環境を作ること（相談窓口）と、専門知識のある常在中立であり続けることができるカウンセラーの存在、そして一人の加がい者としてみるのではなく家族の不全が起きてしまった背景を一緒に考える姿勢である。被がい者も加がい者も傷つきがある、その傷つきに対しては適切なセラピーの提案が欠かせない。</p> <p>●相談のきっかけとなった内容とは別の問題や本当の問題を見つけてあげられる、ヒアリングのノウハウを得ることができた。具体的に工夫した点は、相談者から直接話をうかがった問題そのものではなく、相談者が気づいていない真の問題があるかもしれないことを前提に質問項目を充実させたことである。例えば、最初のきっかけは、「子どもが宿題をしない」という相談が、最後はDV問題に気づかれた。それは、子どもの話だけでなく趣味や好きなことなどポジティブな内容などを聴くことで相談者との信頼が深まり、表面上の悩みではなく自分の本当の問題に気づけたケースである。ヒアリングの時には潜在的な問題に気づくための質問を増やしている。</p> <p>・全てのケースについて、細かくデータ化して考察していくことで傾向や今後の予測ができるノウハウが得られた。病歴、見立てなどもデータ化していくことで傾向が見えた。</p> <p>●子どもが関わる時の支援の手続きや連携先を選択するノウハウについては、他団体や行政の社会資源について調べて使えるものを選んで使っている。リサーチにはきっかけとしてA I（主にchatgpt）を利用して。例えば、今までにない難しいケースや社会資源だけでは不足している場合、AIを活用し、日本全体または世界のケースを調べて、エビデンスのあるものだけに絞り、出てきた回答を再度電話やメールにて事実確認を行いながら、調査を進めた。このようなノウハウによって、知的障がい者施設への入書が必要な方への詳しい情報を提供し、解決したケースがあげられる。</p> <p>●DV等の問題については、家族全体の問題や課題として捉えて一緒に考え解決していくノウハウを得られた。海外では機能不全家庭へのプログラムなどもあるが、日本ではないため一人の問題ではなく家族の問題としてご提案してファミリーカウンセリングを実行したところ成果がでた。</p>		<p>1つ目は、人権教育についてであり、日本は遅れていると感じている。</p> <p>全員の人権が守られないといけないし、憲法でも定められている。家庭も同じである。しかし、日本の教育は教科に重きを置いて人としても国民としても最も大切な人権についての学びが徹底していない。生きていく背景に常に人権を重んじる心がないと他人にも身内にも人権を無視した傷つける行為や態度をしかねない。</p> <p>2つ目は環境である。「環境」については、2つの側面から考えることができると思う。まず、広義の意味では「地域の格差」である。地域によって治安、住みやすさや社会資源や行政サービスの程度が違い、特に子育てがしやすいところ、そうでないところが存在する。そこに生まれて慣れ親しんだ地域とただで良いとは限らない。ネットの普及で情報は得られやすくなったが実際には体験してみたり、住んでみないとわからないこともある。環境を変えたくても経済の問題で変えられない家庭も多々ある。</p> <p>その一方で、狭義の意味では「家庭内の環境」であり、生まれた家がたまたま貧困家庭やDV、犯罪など親の問題がありそこで育てていくなか子どもたちがいる。家庭内の揉め事と見てみぬふりはもはやできない時代であるが、そのような家族には外部の支援が必要になる。家族と離れて新しい環境でやり直すことが必要場合もある。</p> <p>最後は、「誰一人虐げられることのない社会のモデル」が必要であることである。検討にあたっては、日本に限らず世界の地域のなかでモデルとなる国と比較検討する必要があると考える。例えば、一時期幸せのモデル的な存在国としてメディアでも話題だった幸せの国ブータンである。</p> <p>以上のことから、受益者に対して何ができるかを常に考え、また、受益者からも学び丁寧に課題解決ながら、支援から得られた知見や成功事例（失敗事例を含む）を情報発信し続けることが大切だと考えている。</p>		<p>この1年間の活動を通じて</p> <p>社会貢献支援財団賞受賞と利用者様からの満足度が最高値を達成しました。</p> <p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>相談で気持ちが落ちつかれて具体的に解決行動をされるようになった。子どもとの関係を見直されて改善された。助けてもらったからこれからは私も助ける側に回りますボランティアになりました。</p>